小樽市立長橋小学校　学力向上改善プラン

1　実施期間

令和５年４月１日～令和６年３月３１日

2　児童の実態

・令和４年度全国学力・学習状況調査問題、標準学力調査、ほっかいどうチャレンジテストの結果から、課題として見られるのは以下の通りである。国語科は「条件に当てはめて書くこと」「考えとそれを支える理由や事例との関係を把握すること」「登場人物の行動や気持ちなどを捉えること」「正しく読み取ること」「既習の漢字の定着」。算数科は「四則計算の定着」「筋道を立てて、言葉と式を使って説明する。」「図形の概念・見方・特徴・求積」。理科は「生命」領域の「問題に対するまとめを見直して書く」「地球」領域の「実験の結果を根拠にまとめを書く」記述式問題に課題が見られた。

・令和４年度全国学力・学習状況調査では、国語科が全国・全道平均の正答率を下回った。全国平均比－5.6%となった。算数科は全道平均に並び、全国平均比では－2.2%である。理科は全国平均を2.７%上回った。

・標準学力調査の結果、第３学年・第５学年は国語科・算数科ともに全国平均正答率を下回った。３年国語科は全国平均比－1.5%、５年国語科は－9.2%、３年算数科は全国平均比－2.8%、５年算数科は－10.3%である。３年国語科は全国平均に迫ったが、依然として課題が残った。

・児童アンケートの結果、家庭学習時間『学年×10 分＋10 分』を達成している児童は、２学年が 64%、３学年が 78%と高くなった。学校全体の平均では54.6%であった。

3　学年ごとの定着目標（数値目標）

＜国語科＞

学年	定着目標
１年	・条件に当てはめて書く。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・正しく読み取ること（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・既習のひらがな・カタカナ・漢字の定着 （年度末の確認テストにおいて、正答率70%以上）
２年	・条件に当てはめて書く。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・場面の様子や登場人物の行動などを捉える。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・既習の漢字の定着 （年度末の確認テストにおいて、正答率70%以上）
３年	・条件に当てはめて書く。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・考えとそれを支える理由や事例との関係を把握すること。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・既習の漢字の定着 （年度末の確認テストにおいて、正答率70%以上）
４年	・条件に当てはめて書く。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・考えとそれを支える理由や事例との関係を把握すること。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・登場人物の行動や気持ちなどを捉える。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・既習の漢字の定着 （年度末の確認テストにおいて、正答率70%以上）
５年	・条件に当てはめて書く。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・考えとそれを支える理由や事例との関係を把握すること。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・登場人物の行動や気持ちなどを捉える。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・既習の漢字の定着 （年度末の確認テストにおいて、正答率70%以上）
６年	・条件に当てはめて書く。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・考えとそれを支える理由や事例との関係を把握すること。（チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・登場人物の行動や気持ちなどを捉える。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上） ・既習の漢字の定着 （年度末の確認テストにおいて、正答率70%以上）

＜算数科＞

学年	定着目標
１年	・繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の計算ができる。（単元末のテストにおいて80%以上） ・式から問題を作成できる。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上）
２年	・たし算やひき算の計算、かけ算九九ができる。（単元末のテストにおいて80%以上） ・筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上）
３年	・かけ算の筆算ができる。（2･3 位数×2 位数）・わり算の計算ができる。（単元末のテストにおいて80%以上） ・筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上）
４年	・わり算の筆算ができる。・小数のたし算・ひき算ができる。（単元末のテストにおいて80%以上） ・筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上）
５年	・筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。 （単元末のテストにおいて80%以上） ・図形との概念・見方・特徴・求積を理解する。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上）
６年	・筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。 （単元末のテストにおいて80%以上） ・図形との概念・見方・特徴・求積を理解する。 （チャレンジテストにおいて全道平均以上）

＜学習・生活習慣（家庭学習等）＞

学年	定着目標
１年	・２０分以上、宿題・音読・家庭学習に取り組む。(70%以上) ・普段(月～金)、午後９時までにＴＶの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
２年	・３０分以上、宿題・音読・家庭学習に取り組む。(70%以上) ・普段(月～金)、午後９時までにＴＶの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
３年	・４０分以上、宿題・音読・家庭学習に取り組む。(70%以上) ・普段(月～金)、午後９時までにＴＶの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
４年	・５０分以上、宿題・音読・家庭学習に取り組む。(70%以上) ・普段(月～金)、午後９時までにＴＶの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
５年	・６０分以上、宿題・音読・家庭学習に取り組む。(70%以上) ・普段(月～金)、午後９時までにＴＶの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
６年	・７０分以上、宿題や家庭学習に取り組む。(70%以上) ・普段(月～金)、午後９時までにＴＶの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)

４　目標を達成するための具体的な方策

（１）基礎学力の確実な定着を図る取組

①授業に臨む姿勢や返事、発表の仕方などの学習規律について、小中一貫を軸に長橋中学校区内で統一した取組を促進する。

②個のニーズに合わせた学習環境の整備と支援を実施する。

③授業における学校図書館活用を促進する。

④算数専科加配教員や学習支援員等を活用し、学習内容の定着や学習意欲の向上を図る。

（２）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

①全国学力学習状況調査や標準学力調査、チャレンジテスト等の各種客観データにより定着度を把握し、指導に生かす。

②自分の考えをノートに「書く」活動を授業に位置付け、グループで話し合うなど交流活動を積極的に取り入れた授業を行う。

④外部講師による授業等、体験的な活動を適切に位置付ける工夫を進める。

⑤授業や家庭学習の取組で、１人１台端末を積極的に活用する。

（３）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

①小中一貫を軸に長橋中学校区内で統一した家庭学習の取り組み方を具体的に提示し、学校と家庭が一体となった連動性のある学習習慣の基礎を築く。

②家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の点検や励ましを継続的に行う。

③「早寝、早起き、朝ごはん運動」や「おたるスマート７」「アウトメディア」等を保護者へ啓発するとともに、「生活リズムチェック」で実態を把握し、改善に向けた方策を推進する。

５　実施計画

年月日	計　画　内　容
Ｒ５年 ４月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度サポート問題）の実施 ○Ｒ５全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査　自己採点 ○標準学力調査実施（第３学年・第５学年）
５月	○標準学力調査結果分析
６月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（1 学期末問題）の実施 ※CBT 版の活用
７月	児童アンケート(１回目)の実施 ※1 人１台端末を活用して実施する
８月	・(夏季休業中)サポート教室の実施 ・チャレンジテスト(1 学期サポート問題)の実施 ○Ｒ５全国学力・学習状況調査結果分析
９月	・生活リズムチェック(１回目)の実施
１０月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
１１月	・算数パワーアップの取組 ・週末課題の取組(～３月) ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（2 学期末問題）の実施 ※CBT 版の活用 ・児童アンケート(２回目)の実施 ※1 人１台端末を活用して実施する
１２月	○Ｒ５確認テスト(下学年問題)の実施(～１２月) ・チャレンジテスト(2 学期サポート問題)の実施 (冬季休業中)サポート教室の実施
Ｒ６年 １月	・生活リズムチェック(２回目)の実施 ○Ｒ５確認テストの実施(～２月)
２月	
３月	○新学力向上改善プランの作成 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施

６　評価方法

（１）自己評価や保護者・児童アンケートの実施と経年比較による保護者の評価の分析による改善策の組み立て

（２）全国学力・学習状況調査、標準学力調査、チャレンジテスト、確認テストの結果における、全国・全道平均と本校の結果との経年比較等による課題と成果の検証

（３）保護者会や個人面談、学校関係者評価委員会、ＰＴＡ会議での情報収集

（４）児童の実態交流の評価